

外国人で初めて将棋の女流プロ棋士になるポーランド出身の



カローリーナ・ステュクスカさん



日本の伝統文化である将棋のとりこになった。公式戦の女流名人戦で見事に予選決勝進出を果たし、規定を満たした。ポーランドから来日した25歳は「人生の目標のプロになれてうれしい」とほほ笑んだ。

将棋との出会いは10代後半。ポーランド語に訳された人気漫画「NARUTO」ナルト」に将棋のシーンがあった。見たこともないゲーム。インターネットで調べると、チェスにはない取った駒を使えるルールが新鮮だった。ピシッと駒を指す姿も格好よかった。

独学で勉強を続け、ネットの対戦サイトで腕を磨いた。将棋の海外普及に熱心な女流プロ、北尾まどか二段の目を引いた。「強い」。その指し手に舌を巻いた。

2012年、海外招待枠で

女流プロ公式戦に出場。プロ1人を破るまで実力をつけ、日本で女流プロになることが目標となった。

翌年、女流プロ養成機関「研修会」の試験に合格。東日本大震災後ということもあり、母親は反対したが、押し切つて来日した。山梨学院大に入学し、甲府市の寮から東京の研修会に通った。慣れない生活。思うように成績を挙げられず、帰りの電車で涙があふれた。

将棋の勉強は1日3時間以上。その努力が実り、15年に女流プロの仮資格(3級)を取得し、公式戦への出場機会を得た。そして今回、晴れて女流プロ棋士の2級に昇格、夢をかなえた。

日本語も上達し、そばや天ぷら、刺し身が好物。「将棋を世界に広めたい」が次の目標だ。

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。

名前【 】

① この記事の人は、どこの国の出身ですか。

② このステュクスカさんが、将棋のとりこになったのは、将棋のどんなところに魅力を感じたのでしょうか。2つ書きましょう。

③ この記事を読んだ感想を書きましょう。

NIエワークシート／小学校高学年／高校／国語、総合、道徳、朝NIエ